

●29 日中聖牛 4 基の骨組みできる

1月20日は大寒で暦の上でも最も寒い時期になりました。2月になり節分が過ぎ4日は立春を迎えましたが気象予報で最低気温は氷点下でした。そして木津川では中聖牛の組立が始まりました。2月の最終土日曜日が完成させる竣工日と決定されました。これまで竣工は10月や遅くても12月初めの比較的温かい作業が行いやすい時期に行ってきましたが、今年は諸般の事情から年間で最も寒い時期になってしまいました。それも寒風吹きすさぶ木津川河川敷での作業ですから大変です。想像を超える中での作業ですから、参加される方々のご苦労は計り知れません。この時期の屋外の作業はさけないものです。これまでの冬の作業は寒風を避けることができる山仕事で、炭焼などでした。それでも粉雪舞い散る木津川の河川敷で森島副理事長、播川さん、有田さん、太田さん、吉村さんら5人も集まってくださって中聖牛の組立に精を出していただきました。作業内容は数人が力を合わせなければならないチームワークが必要な杵骨組作業なのです。この日は4基とも棟木が持ち上げられ、すごい出来ばえでした。

●2月5日は総勢15人が集合 全員が力を合わせる

この日は中聖牛を本格的に組み始める予定でしたが先週に棟木を4基とも組みあがっていますので大事なポイントの針金締めでした。7mもある長さの棟木で、直径25cmで高さ4mに上げてあるので作業は大変でした。そしてその下で作業を繰り返すのですから安全にも安全を確認して行わなければなりません。とにかくこの日は棟木の固定化に全力を注ぎました。厳しい寒さが続き粉雪が舞い散る中での作業でしたが無事に怪我もなく作業が進みました。大人たちに交じって子供達も手伝ってくれました。元気な子供達の動きに大人も大いに力をもらった一日でした。

●6 日子どもたち大人に混じって負けじとお手伝い

中聖牛の組み上げを行うのは2月のすべての土・日・祝日に実施することになっていて、6日も引き続き実施しました。この日も子ども達数人がお父さんお母さんと一緒に来てくれました。京都市内には積雪もあり、河川敷では寒い北風が吹きまわっていました。少しでも体を動かしていれば暖かいのですが、休憩をすれば体温が冷えてきます。厳しい条件でした。

二日目になるので子供達もお手伝いの内容を指導しなくても適当に遊びながら作業をしてくれました。いつもだと昼ごはんの時間より早く食事に取り掛かるのですが、この日は大人がご飯だよと強く呼びかけないと集まってこないほど遊びに夢中でした。だんだんと付近の状況がわかってきたので、また誰も厳しい注意もしないし、かなり自由に飛び回れるし自由自在に動けることができ、だんだん面白く楽しい時間になったようでした。背の高さを超えるススキも生えていて思いっきり楽しめる場所だったのではないのでしょうか。午前中で帰宅する予定で来られていたのですが、あまりにも無邪気に遊びお手伝いもしてくれるので午後3時ごろまで一緒に作業を行ってくれました。寒い中大変良く頑張ってくれました。要領を飲み込んでステップルをたくさん作ってくれました。

●地域説明会その役割

地域説明会は里山の会が1年間何を目的に活動を展開してきているのかを理解していただき、故郷の山々や、やましろを流れる木津川が果たしてきた役割や現在どういう川になっているのか、これからの川の在り方を考えていただく資料提供ができて、自然を大切にする仲間の輪を大きくしたいと開催してきたものです。我々は広く多くの人々に伝えたいと思っているのだけれど、広報活動が充分できなくてまた企画立案も不十分なものですから、思うような成果が得られていませんが、継続は力なりと言われる言葉にはげまされ続けてきました。今年は久御山・井手・宇治田原・精華と4か所で開催してきました。それぞれの町では呼び込み案内不足をカバーして多くの方々の入場が

ありました。ご高覧頂いた皆さんの声はいい展示だとか知らないことを学ぶ機会を得たとかなど、かなり積極的な反応を示していただき、展示に頑張ったスタッフは逆に力と自信を得させていただいています。これからもしっかり自然の姿を伝えられるよう頑張りたいと思います。残された和東笠置南山城でも開催を目指したいと思っています。

●竹島さん来所 竹鉛筆(サインペン) 試作

プラスチックごみの問題が今大問題になっています。できるだけ使用料を減少させたいとか、代わりの材料でとか工夫がされてきています。特にレジ袋の有料化が始められています。里山の会では木津川のゴミ清掃を通じて考えてきました。自治体や諸団体のイベントアンケートなどで使用される小さな鉛筆は使い捨て出来るもので、大量に使用されているものです。ここで心が痛みます。使い捨てされるものならもっと改善できないものかと、そこで自然に優しく身近な材料でと考え、思いついたのが簡単な素材での製作だったのです。それを今、竹島さんが試作に挑戦をしていただいております。まだ全面的に公開するところまで至っていませんが第1号製品が出来ましたら第2号製品のために改良を重ねてより良い完成品を目指したいと思っています。ご期待ください。

●新年度も竹蛇籠製作 講習会実施か？

いよいよ2021年度の年度末を迎えて、新年度の運営計画の検討が佳境を迎えて頭の痛いときです。里山の会もどうするのかと頭を悩ましています。これまで足掛け7年間木津川の竹を使用して蛇籠を作り続けてきました。完全な製品・商品にできるところまでは行き届いていませんが、とりあえず使用には耐えられるところまではこぎ付けられる技術は確立できるまでは到達できたと思っています。それでご指導をいただいていた竹門康弘准教授の下で2022年度も技術伝承のために講習会の開催計画が持ち上がり講師の役割を果たしてほしいと連絡がありました。中聖牛の製作 竹蛇籠の製作講習会 本格的な8Mの長さの竹蛇籠の製作講習会の開催打診がとどきました。2月の事務局会議で検討の結果、受け入れることで合意一致しました。ただ真冬は避けてと開催時期に意見が付きましたが開催に賛成されました。

●国交省完成検査 3月25日午前10時に決定 完了書類の提出期限は3月18日で、事前点検は2月20日前後に予定提出をしています。淀川河川事務所の事業担当官の東さんは退職されるようで担当官が変わられるとの事です。たびたび変更されるとのことで少し不安も増してきています。

●国交省 木津川稀少種植物調査業務の公募は2月末の予定

2022年度の公募は少し遅れるように聞き及んでいます。すなわち申請書類提出までの準備期間が短くなるようなので、準備時間が無くなってくるようです。事前にかなり準備を整えて臨まなければならないのではないかと予想しています。

●京都府山城広域振興局から交響プロジェクト報告書期日に間に合うようにと催促が届きました

中聖牛の完成式・竣工式 要領

2月26日(土) 集合9時 開橋100人募集来場者には昼食弁当用意

2月27日(日) スタッフ集合8時30分 一般集合9時

開会挨拶	9時30分	
第1回作業開始	10時00分	石の投入
式典開始開会挨拶	11時05分	竹炭着火
来賓挨拶	11時10分	
経過報告	11時20分	
昆布茶で乾杯	11時30分	
余興	11時32分	焚火を囲んで 竹炭披露
集合写真	11時45分	
閉会挨拶	11時50分	

場所 木津川 精華町 開橋上流 600m

お土産 木酢液少々 竹炭希望者のみ(少々)

実演 竹炭生産■